

心の輪を広げる体験作文 小学生部門 ◆優秀賞

「みんな同じ」

相模原市立富士見小学校 三年 永井 紗英

ながい さえ

わたしは、学童クラブぐるんぱに通っています。夏休みのある日、学童の先生が、

「きこりに行きたい人？」

と言ったので、気になったから行ってみることにしました。

ウッドイショップきこりは、しょうがいのおもさにかかわらず、社会のじゅうようないちいんとしてはたらき、ひとりひとりが自分らしく生きることをめざすための通所しせつです。

きこりに着いてまず、そういうしせつのせつめいを聞いてから、木のはがきの作り方を教えてもらいました。

やすりで、はがきのまわりをつるつるにけずるのが一番時間がかかりました。

そのあと、わたしがすきなイルカとタツノオトシゴと魚の木のパーツを3つえらびました。

次に木のパーツに色をぬって、顔を書いて、ボンドではりつけました。作っている時に、しせつの人がかけるのをてっだっ

てくれました。

作りおわったら、きこりにいる人たちのさぎようを見学しました。しょうがいのある人でも電動のこぎりで木を切って、パズルなどの作品を作っていてすごいなーと思いました。

きつとできるようになるまで、たくさん練習したんだろうなと思いました。

秋にあったぐるんぱのワークショップでも、きこりの商品が売っていました。わたしは、木でできたイルカのゴムを買いしました。絵の具の入れ物を止めるのに、今も使っています。

わたしは、しょうがいがある人でもない人でもみんな、どりよくをすればできることもふえていくし、やりたいこともたくさんできるようになるから、しょうがいのある人もない人もみんな同じなんだと見学をしてみて、感じました。